

【シェアリングエコノミー × SDGs】 モビリティのシェアリングによる脱炭素社会への貢献を調査

一般社団法人シェアリングエコノミー協会(代表理事:上田祐司、石山アンジュ)は、株式会社情報通信総合研究所(代表取締役社長:神谷直広)と共同で、「SDGs × シェアリングエコノミー」に関する調査を行っています。

今回新たに、移動におけるシェアサービス(カーシェア・シェアサイクル)の脱炭素社会への貢献を調べた結果、トータルのCO2排出削減効果は“国内小売業全体の排出量と同程度”であることが分かりました。



当協会は、2020年に情報通信総合研究所と共同で「SDGs × シェアリングエコノミー」に関する調査(*1)を実施し、“シェアリングエコノミーがSDGsに多面的に貢献すること”を明らかにしました。

主に該当するのはSDGs17の目標のうち下記項目になります。

SDGsへ貢献するシェアリングエコノミーの効果の例	対応するSDGs
<ul style="list-style-type: none"> 医療・介護サービスが受けられる人の増加（医療・介護スキル） 	3 すべての人に健康と福祉を
<ul style="list-style-type: none"> ニーズに合う教育を受けられる人の増加（教育スキル） 	4 質の高い教育をみんなに
<ul style="list-style-type: none"> 労働参加できる女性の増加（育児・家事スキル、クラウドソーシング） 	5 ジェンダー平等を実現しよう
<ul style="list-style-type: none"> 失業を回避できる人（全カテゴリ） 働きがいを感じる人の増加（民泊、スキル全般） 	8 働きがいも経済成長も
<ul style="list-style-type: none"> 観光振興（民泊、体験スキル）、企業支援・関係人口増加（専門スキル） 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
<ul style="list-style-type: none"> 移動手段の確保・移動費用の減少（移動全般） 買い物のための移動の負担減少（買い物代行） 都市周辺部と農村部の交流拡大（全カテゴリ）、 	11 住み続けられる街づくりを
<ul style="list-style-type: none"> 新品を購入する人の減少・ゴミの減少・ゴミ処理に伴うCO₂排出の減少（スペース、モノ、移動） 自動車での移動によるCO₂排出の減少（サイクルシェア、カーシェア） 	12 つくる責任つかう責任
	13 気候変動に具体的な対策を

(参考) SDGsへの貢献効果一覧

シェアサービスのSDGs貢献MAP



(参考) シェアリングエコノミー協会会員企業のSDGsカオスマップ

その中で、昨年よりシェアリングによる脱炭素社会への貢献（SDGs「つくる責任つかう責任」、「気候変動に具体的な対策を」に関する項目）を調査しております。

2022年4月には「既存のスペースやモノをシェアすることで得られる脱炭素効果」に関する調査(*2)を公表しました。

2030年度のSDGsへの貢献効果予測 脱炭素社会への貢献

スペース関連のCO ₂ 排出量		モノ関連のCO ₂ 排出量		合計	
シェア活用前	新築建設時のCO ₂ 排出量	建設廃棄物処理のCO ₂ 排出量	家庭で利用するモノの生産時のCO ₂ 排出量	家庭ゴミ処理のCO ₂ 排出量	CO ₂ 排出量合計
	4,036万 t-CO ₂	233万 t-CO ₂	1,618万 t-CO ₂	240万 t-CO ₂	6,127万 t-CO ₂
スペースのシェアサービスで既存の建築物をシェアして活用		モノのシェアサービスで既存のモノをシェアして活用		スペース・モノのシェア活用	
シェア活用後	新築建設の減少	建設物解体の減少(廃棄物減少)	新品購入の減少	家庭ゴミの減少(廃棄物減少)	貢献効果合計
	351万 t-CO ₂ 減少 (8.7%減少)	20万 t-CO ₂ 減少 (8.7%減少)	63万 t-CO ₂ 減少 (3.9%減少)	11万 t-CO ₂ 減少 (4.5%減少)	445万 t-CO₂減少 (7.3%減少)
宿泊業の排出量351万t-CO ₂ 、小売業の排出量330万t-CO ₂ よりも大きい					

※ 2030年度のシェアリングエコノミー市場規模が14兆2,799億円(課題解決シナリオ)まで拡大すると想定した場合の推計。
 ※ 基準となるCO₂排出量は2020年度データから計算。



この度新たに「移動のシェア(*3)を活用することで得られる脱炭素効果」に関する調査を公表しました。

2032年度の移動のシェアによる脱炭素社会への貢献

移動のシェアによるCO ₂ 排出削減効果は国内小売業全体の排出量と同程度		
シェア活用前	日本全体の自動車からのCO ₂ 排出量※1	
	8,440万t-CO ₂ (2020年度)	
シェア活用後	カーシェアサービスによるCO ₂ 削減効果	サイクルシェアサービスによるCO ₂ 削減効果
	効率的な自動車利用により移動距離・燃料消費が減少(電気自動車のシェアカー利用増加効果も含む)	自動車移動を自転車で代替することで燃料消費が減少
	280万※2 t-CO ₂ 減少 (3.3%減少※3)	43万※2 t-CO ₂ 減少 (0.5%減少※3)
	323万 t-CO₂減少 (3.8%減少)	
小売業の排出量330万t-CO ₂ と同程度		

※1 国土交通省「運輸部門における二酸化炭素排出量」 https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_tk_000007.html
 ※2 2032年度のシェアリングエコノミー市場規模が15兆1,165億円(課題解決シナリオ)まで拡大すると想定した場合の推計
 ※3 日本全体の自動車からのCO₂排出量8,440万t-CO₂に対する減少率



～モビリティのシェアリングによる脱炭素効果 算出の考え方～

カーシェアによるCO₂削減効果：280万t-CO₂減少 (A)

サイクルシェアによるCO₂削減効果：43万t-CO₂減少 (B)

⇒ カーシェア・サイクルシェアによる貢献効果 (A+B)：323万 t-CO₂減少 (C)

(C)の数値は、小売業の排出量(330万t-CO₂)と同程度になる

(※) 詳細はこちらの調査資料はこちらよりご覧いただけます。

<https://sharing-economy.jp/ja/wp-content/uploads/2023/03/6977ef23caa859c09923168314de910d.pdf>

今回の調査を通じて、モビリティのシェアリングが、SDGsの達成に向けた解決策であることを確認しました。

個人の移動手段を多様化することで、二酸化炭素の排出削減に貢献するだけでなく、都市部での渋滞解消や交通事故の削減など、様々な社会的効果をもたらすことが期待されます。

今後も、当協会は会員企業の皆さまと共に、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを積極的に進めて参ります。

(*1) 2020年公表：シェアリングエコノミー関連調査「SDGsへの貢献」

<https://sharing-economy.jp/ja/news/20201116>

(*2) 2022年公表：既存のスペースやモノをシェアすることで得られる脱炭素効果

<https://sharing-economy.jp/ja/20220310>

(*3)移動（モビリティ）のシェアリングとは

CtoC型カーシェア、BtoC型シェアサイクルなどを指します。

調査概要（詳細 ※の資料P.8に記載）

- ① 調査期間：2022年9月29日～10月6日、10月4日～8日
- ② 調査機関（調査主体）：株式会社情報通信総合研究所
- ③ 調査対象：調査会社のWebモニター、20代～60代の男女
- ④ 有効回答数（サンプル数）：プレ調査40,052、本調査2,719
- ⑤ 調査方法（集計方法、算出方法）：Webアンケート調査（プレ調査、本調査の2段階）

【一般社団法人シェアリングエコノミー協会】

公式HP：<https://sharing-economy.jp/ja/>

Twitter：https://twitter.com/SEAJ_official

2016年1月設立以来、シェアリングエコノミーを支える唯一の業界団体として、法的な整備をはじめとする様々な取り組みを実施しています。現在 348社の企業と118の自治体が加盟。

【株式会社情報通信総合研究所】

<https://www.icr.co.jp/>

1985年に発足した情報通信総合研究所は、情報通信分野専門のシンクタンクとして、数々の技術革新とそれに伴う社会・経済の変化に関わってきました。固定通信や移動通信、インターネット・ICT、通信と放送の融合から地域の情報化など、情報通信関連の調査研究、コンサルティング、マーケティング、出版事業などの活動を展開しています。

問合せ先：山本悠介（E-mail：yamamoto@icr.co.jp、Tel：03-3663-7500）

一般社団法人シェアリングエコノミー協会のプレスリリース一覧
https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/22734

【本件に関する報道関係者からのお問合せ先】
一般社団法人シェアリングエコノミー協会
info@sharing-economy.jp
